

「豊川水系における将来の水需給に 関する考え方」及び「設楽ダム」について



河川整備計画と水資源開発促進法との関係

河川法

(国土交通省河川局)

河川整備基本方針

将来の河川像

河川整備計画

20～30年後の河川の整備目標及び内容

- ・河道改修
- ・洪水調節施設
- ・河川環境
- ・不特定補給
- ・維持管理
- ・その他

水資源開発促進法

(国土交通省土地・水資源局)

水資源開発基本計画

(フルプラン)

閣議決定

新規利水

水道法

(厚生労働省)

水道用水

工業用水道事業法

(経済産業省)

工業用水

土地改良法

(農林水産省)

農業用水

関係省庁間で相互に調整

学識者からの意見聴取(流域委員会) 必要に応じて

地方公共団体の長からの意見

関係住民からの意見聴取 必要に応じて

NEWS RELEASE

平成 17 年 12 月 1 日

国土交通省中部地方整備局

1. 件 名 「豊川水系における将来の水需給に関する考え方」及び「設楽ダム」についての関係機関による会議の開催結果について
2. 概 要 本日、関係機関と標記の会議を行い、豊川水系における将来の水需要の想定や供給施設の実力等について打ち合わせが行われました。これを踏まえて、新規利水容量、水利用の安定性の確保や流水の正常な機能の維持のために必要な容量、洪水調節容量、及び堆砂容量について、ダム事業主体である中部地方整備局は設楽ダムについての考え方をとりまとめました。
3. 資 料 別添資料のとおり
4. 解 禁 指定なし
5. 配 布 先 中部地方整備局記者クラブ、愛知県政記者クラブ、静岡県県政記者クラブ、豊橋市政記者会、新城市政記者クラブに同時配布
6. 問合せ先 国土交通省 中部地方整備局
企画部 広域計画課長 鈴木 昭二
TEL 052-953-8129
河川部 河川計画課長 正木 孝治
TEL 052-953-8148

設 楽 ダ ム に つ い て

平成17年12月1日

中 部 地 方 整 備 局

平成17年12月1日の関係機関による打ち合わせを踏まえた中部地方整備局の設案ダムの考え方

項 目		現 行(H8)	対応方針案	変更概要
総貯水容量		約1億m ³	約9,800万m ³	
洪水調節容量		1,900万m ³	1,900万m ³	
新規利水容量		2,000万m ³	1,300万m ³	新規需要の見直しによる減量
不特定容量		5,700万m ³	6,000万m ³	河川環境を保全する流量確保のための増量
堆砂容量		400万m ³	600万m ³	流域の実態を踏まえた新たなダム堆砂量推計方法による再検討
新 規 利 水	農 水	約0.3m ³ /s	約0.3m ³ /s	
	上 水	約0.8m ³ /s	約0.2m ³ /s	

ダム容量の配分イメージ

従前の考え方

ダム高: 129m

総貯水容量 約10,000万m³

洪水調節容量 1,900万m³

新規利水容量 2,000万m³

不特定容量 5,700万m³

堆砂容量 400万m³

今回の考え方

ダム高: 129m

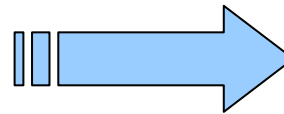
総貯水容量 約9,800万m³

洪水調節容量 1,900万m³

新規利水容量 1,300万m³

不特定容量 6,000万m³

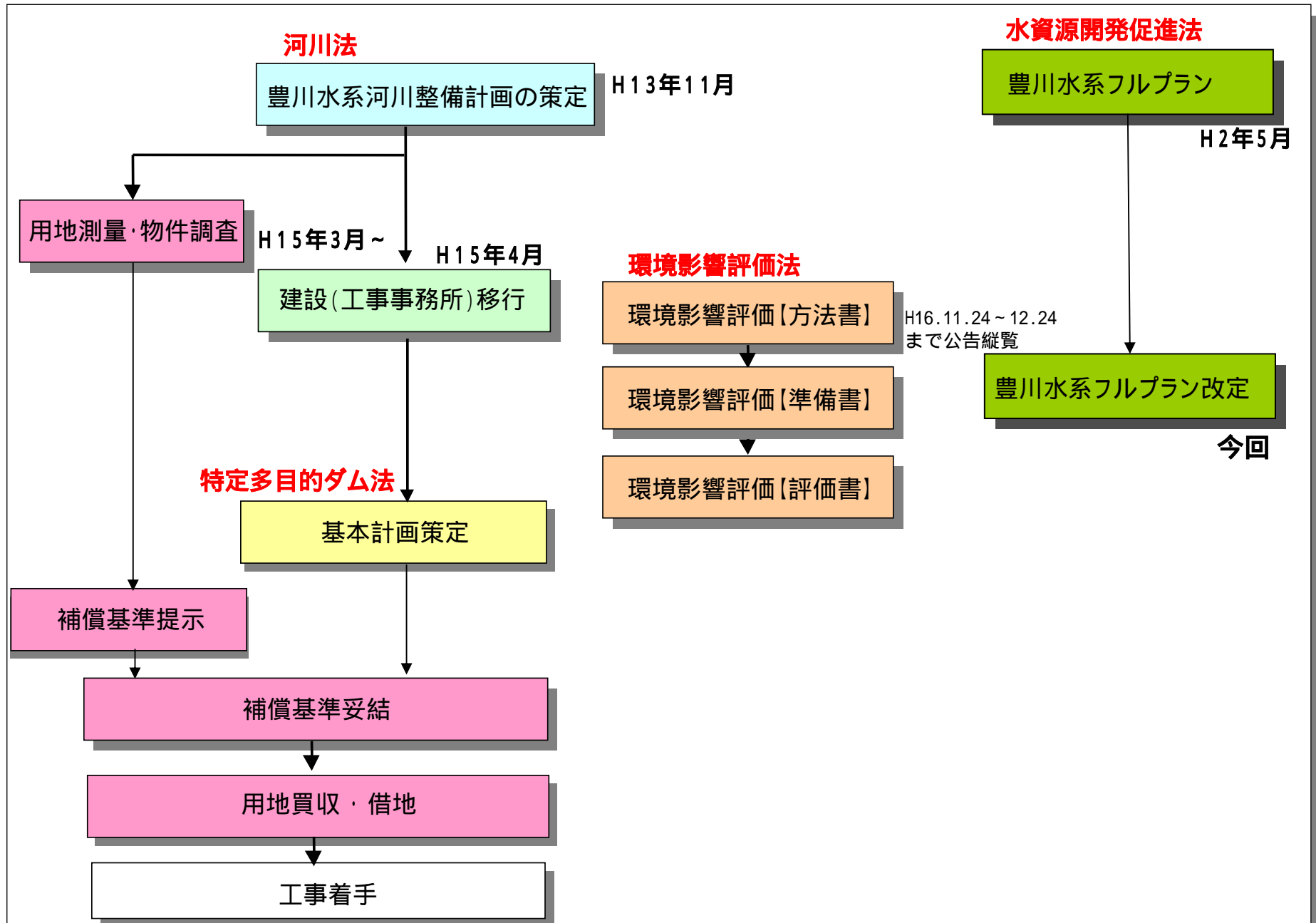
堆砂容量 600万m³



「設楽ダムのこれまでの経緯」

昭和53年	4月	実施計画調査に着手
平成4年	10月	現地立入調査に関する協定の締結
平成11年	12月	豊川水系河川整備基本方針決定
平成13年	11月	豊川水系河川整備計画策定
平成14年	3月	用地調査実施に向け、現地立入調査に関する変更細目協定を設楽町と締結
平成15年度～		建設事業着手
平成15年	10月	建設事業の推進に関する協定書を設楽町長と調印（愛知県知事立会）

設楽ダムの今後の流れ



豊川の利水と河川環境の現状等について

平成17年12月1日

中部地方整備局

東三河地域の社会・経済を支える豊川の水

東三河地域の5市4町の約70万人に水道用水を供給
 三河港の臨海工業地帯を支える工業用水を供給
 国内有数の農業生産地に農業用水を供給

豊川の水を利用している区域



東三河の産業を支える工業用水



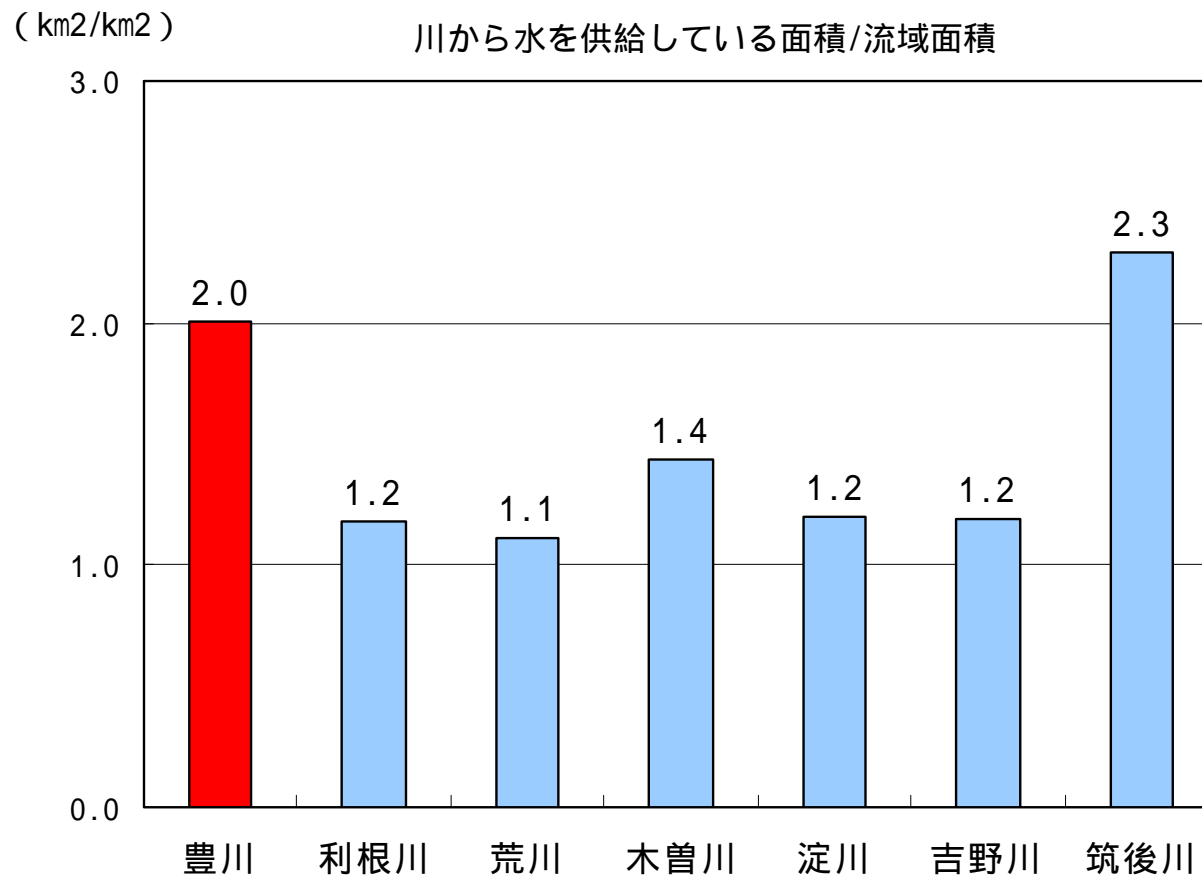
豊川の水に支えられた農業生産

順位	都道府県	市町村	産出額
1	愛知県	豊橋市	496億円
2	北海道	別海町	443億円
3	愛知県	渥美町	387億円
4	愛知県	田原市	335億円
5	宮崎県	都城市	329億円

出展
 平成15年生産
 農業所得統計

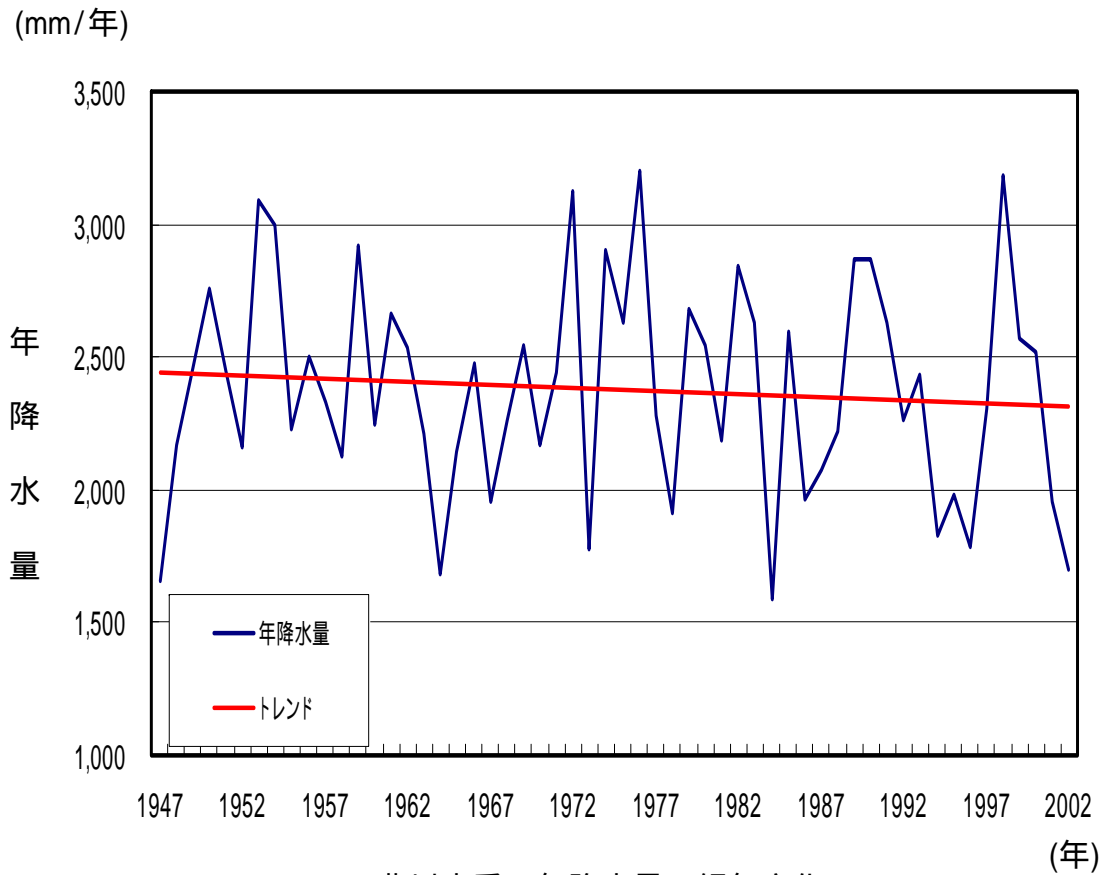
豊川の水利用の特徴

豊川は流域の規模(面積)に比べて、広い範囲に水を供給している。

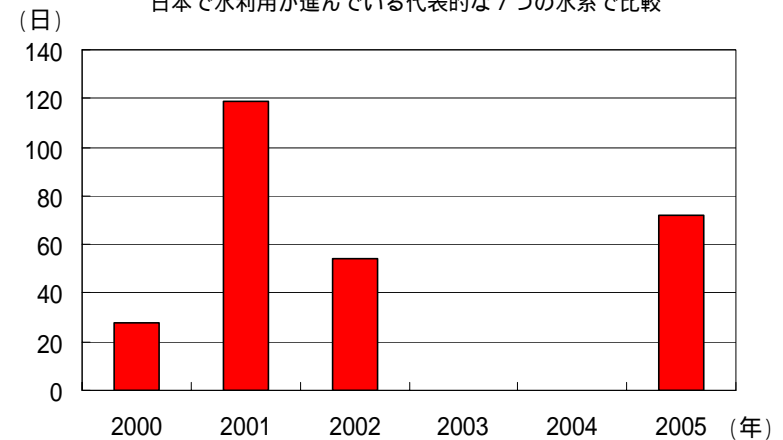
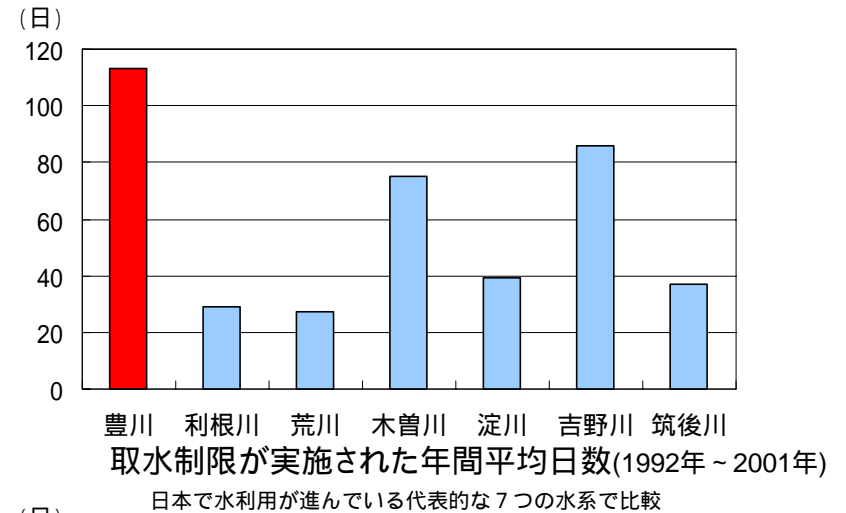


豊川水系における渇水の発生状況

豊川流域では近年、年降水量が減少傾向にあり、多雨の年と少雨の年の差も大きくなっている。このため、毎年のように河川から取水できる水量が制限されており、平均して年間約110日も水利用に支障をきたしている。



国交省雨量観測所より算出



豊川水系における渇水による被害状況

渇水により深刻な水不足となった年には、プールの閉鎖、工場の一部生産停止、農作物の生育不良等の被害が発生している。



空になった宇連ダム(昭和60年1月)

つづる水不足

操業停止のピンチも

蒲郡市の織
維産業など 用水確保を訴える

蒲郡工業用水道協議会(浅井壽夫会長)は十日、といった最悪の事態も避けられず、死活問題。格別の「高配を」と訴えている。同ダムの貯水は九日朝現在、満水時の二五・四%。蒲郡工業用水道協議会(浅井壽夫会長)は九日、豊橋市内にある中部地建と水質源開発公社、東海農政局の各出先事務所に「異常渇水に伴う水利調整の実施を陳情した。十日には愛知県協議開始を」と要望した。

蒲郡工業用水道協議会(浅井壽夫会長)は十日、といった最悪の事態も避けられず、死活問題。格別の「高配を」と訴えている。

水利調整の実施を陳情

蒲郡工業用水道協議会(浅井壽夫会長)は十日、といった最悪の事態も避けられず、死活問題。格別の「高配を」と訴えている。

市民プール全面閉鎖

～猛暑の豊川市内～
もう泳ぐところなし

豊川市は、市民プールを七日の日曜日を最後に、今シーズンは全面閉鎖することにした。厳しい渇水で、今週中にもさらに節水強化が予想されることから全面閉鎖を決定した。同市民プールは、渇水対策のため、七月二十一日から土曜日と日曜日だけ開場。その他の日は閉鎖していた。しかし、水不足はさらに深刻となり、七日の日曜日を最後にこの夏はプールの使用をやめた。学校のプールについては、七月二十日から全面中止しており、子供たちにとってこの夏のプール遊びが終わった。

平成6年8月10日(水)東海日日新聞

渇水時における豊川の河川環境

豊川の流量が減少し渇水になると、川を流れる水がなくなる「瀬切れ」が発生するなど、生物の生息・生育環境が悪化する。
特に、夏場に河川流量が減少すると、アユの斃死が発生している。

近年平均180日程度は、大野頭首工から下流に流れる水が無くなっている。 1



大野頭首工下流の「瀬切れ」の状況
(平成16年12月)



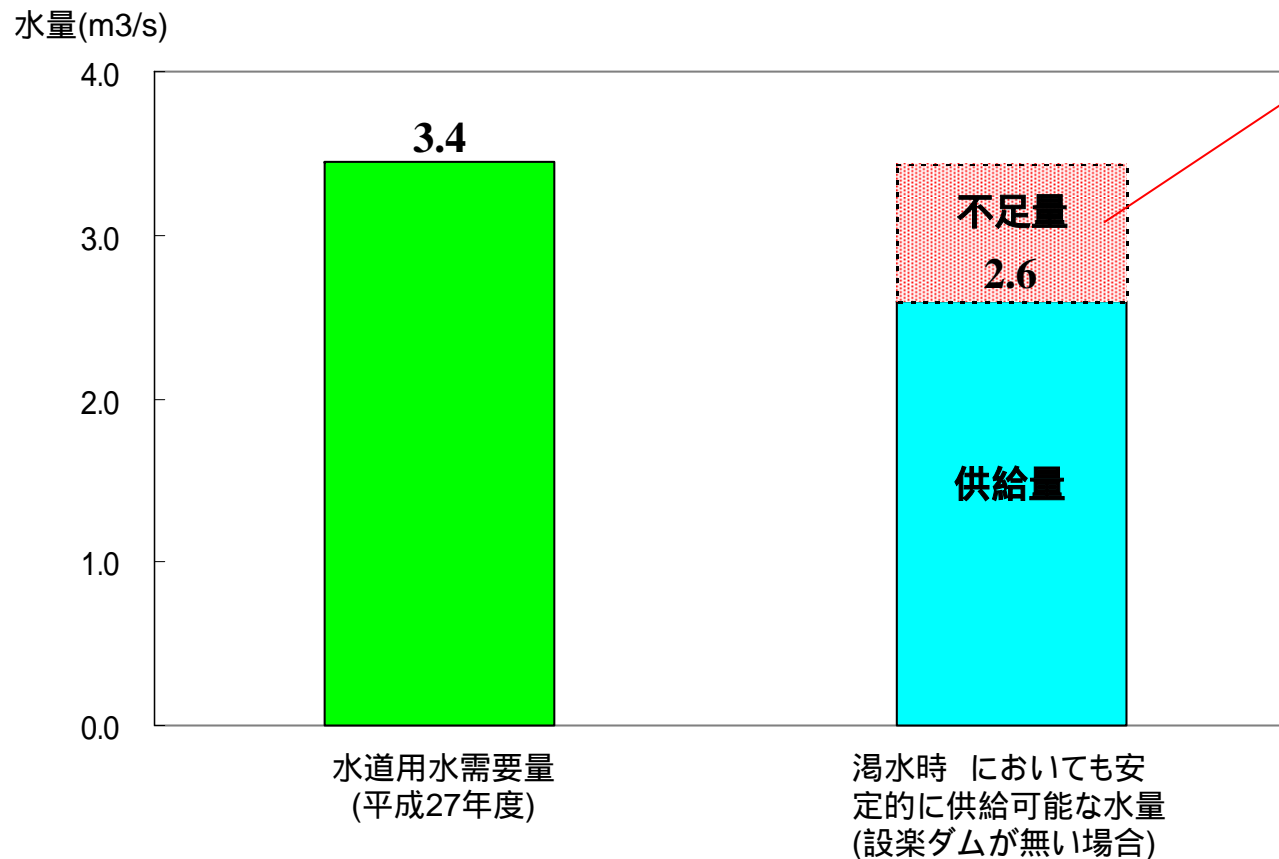
牟呂松原頭首工下流（新城市）におけるアユの斃死の状況
(平成元年8月 水量約4m³/s)

1)平成15年～平成16年の実測値より算出

設楽ダムによる豊川の水利用の安定化

渇水時に設楽ダムの水を豊川へ放流することにより、河川から取水している水道用水、農業用水、工業用水の安定的な利用が可能になる。

特に、水道用水では、平成6年渇水のような状況においても必要な水量を供給することができる。



渇水時とは、近年の20年間で2番目に大きな渇水時をいう。

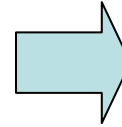
設楽ダムによる豊川の環境改善

渇水時に設楽ダムから水を放流し、豊川の河川流量を増加させ瀬切れ区間を解消することで、河川生態系や良好な河川景観を保全する。

大野頭首工下流の流量を回復 清流の復活



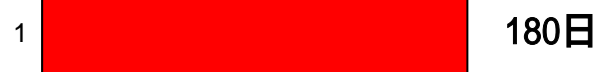
(2004年4月26日 大野頭首工放流量0.0m³/s)



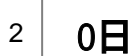
(2004年4月29日 大野頭首工放流量1.3m³/s)

大野頭首工から下流に水が流れない日数

設楽ダムが無い場合



設楽ダム完成後



0 100 200 300 365 (日)
2 - 7

1) 平成15年～平成16年の実測値より算出

2) 1980年～1999年までの20ヶ年における利水
計算シミュレーションの結果

堆砂量の考え方

堆砂進行速度が計画を大幅に越えるダムが発生していることから、堆砂量の推計方法の改善に向けた新たなダム堆砂量推計基準が見直されました。

(「平成17年版多目的ダムの建設」掲載)

従前の考え方

推定式による比堆砂量の推定

起伏量、高度、降雨量、洪水量、河床勾配、崩壊地面積を堆砂因子とした推定式で、**全国的な堆砂実績データから導かれた全国平均な推定式**
田中、石外、江崎、吉良、難波・川口、鶴見の式から推定

近傍ダムの実績比堆砂量と計画比堆砂量の整理

宇連ダム、羽布ダム、矢作ダムの**実績と計画の比堆砂量を単純に整理**
(東海豪雨は未考慮)

推定式による推定結果、矢作ダムの実績・計画比堆砂量の両者から

- ・設楽ダムの比堆砂量を600m³/km²/年に決定
- ・100年分の堆砂量 4,000千m³を計画堆砂量とした

今回の考え方

確率処理した近傍ダムの実績比堆砂量による推定

- ・**地域特性を重視し、近傍にある地質・気候特性が類似したダムの各年実績堆砂量を確率処理し、年平均比堆砂量の期待値を算定した。**
(年平均比堆砂量の信頼性の向上)
- ・年降雨量、貯水池回転率、起伏度、高度、崩壊地面積率、森林分布率を堆砂因子とし、選定ダムにおける年平均比堆砂量と堆砂因子との関係を整理

年平均比堆砂量と堆砂因子との関係式に設楽ダムの堆砂因子をあてはめる



(H12年9月矢作ダム土砂流入状況)

- ・設楽ダムの比堆砂量を 950m³/km²/年に決定
- ・100年分の堆砂量 6,000千m³を計画堆砂量とした